



5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

第1回実施報告

日時：2018年7月21日（土）13:20-16:20

場所：広島大学附属福山中・高等学校内情報教育棟 マルチメディアホール

参加者：生徒18名，留学生4名，大学教員1名，本校教員4名

実施内容

このプログラムはSGHの一つの柱である「スーパーグローバルプログラム」に位置付けられ、異文化を背景とする人たちと英語で話をしたり、議論したり、合意形成したりするプログラムの一つで、広島大学大学院国際協力研究科（International Development and Cooperation: IDEC）の留学生とともに「環境」「平和と教育」の2つのテーマについて、高校2年生がグループで議論するものです。

第1回である今回は、当校から生徒18名，IDECからは清水欽也教授と「平和と教育」をテーマとするインドネシア1名，バングラディッシュ2名，中国1名，計4名の留学生が参加しました

今年度のプログラムを開始するに当たり、広島大学の清水欽也先生から、本プログラムの意義についてお話しいただきました。その中で、特に、当校の卒業生として「高校時代は、外国へ行くということは、自分にとって他の惑星へ行くのと同じようなものと考えていた。しかし、今は、となりの町へ行くような感じで世界を飛び回っている。現在またこれからも、皆さんの70~80%の同級生が外国と関係する仕事をするようになるでしょう。国際社会の課題について学び、いっしょに解決できるよう考えていくことが大切です。このプログラムがその機会となれば幸いです。」と、英語で後輩たちに語られました。

第1部では、4名の留学生から以下のテーマでそれぞれの研究について発表が行われました。

- Role of Civil Society Intellectuals(CSI) in Resistance
: A Study of Social Movements in Bangladesh
- Inclusive Education
- Muslim Minorities in Japan after Global Terrorism
- The real teaching practicum in China

第2部では、生徒を4つのグループに分け、各グループに留学生が交代しながら入り、すべてのテーマについて、それぞれ研究内容やその背景となる社会的課題について議論を行いました。

第3部では、4つのグループが留学生が提示した課題についてそれぞれ分担し、ブレインストーミングを通してその解決策や解決に向けた課題について議論し、多角的に捉え、核となる問題点や、解決に向けての視点などを整理し、模造紙にまとめました。生徒たちも、テーマについて理解を深めたり、意見を交わすためにこれまで学校で学んだ知識を総動員して議論をしたりする様子が見られました。



生徒の感想をいくつか紹介します。

〔生徒の感想〕

- なかなか自分から話せなかったが、ブレインストーミングを通して、いろんなことを留学生と共有できてとても良い時間を過ごすことができた。3時間という短い時間だったが、その内容は濃いものだった。楽しかった！！
- 私は英語でのコミュニケーションを向上させるためにこのプログラム参加しましたが、今日はまだ自分から積極的に話すことができませんでした。次回まで、まだ時間があるので、様々な資料を読んで知識を深め、次はより密度の濃い時間にしたいです。
- 留学生と話す中で、自分が思っていることを伝えるのが難しいと思ったが、清水先生からも「自分分かる言葉ではなせばいい」とアドバイスをもらい、そこまで緊張することなく話せた。ディスカッションをするのは楽しかった。
- なかなか難しいトピックでした。今日が教育や平和についてより深く考えるきっかけになる予感がしました。その一方、中学3年間と去年で学んだことも生かした場面があったので、教科の壁がない心地良さもありました。次が楽しみです。
- バングラディッシュのマングローブ林や中国の教育実習など、普段考えないようなことについて考えたのでとても新鮮に感じた。ブレインストーミングでは自分の考えていなかったことを他の人が指摘していて気づかされることがあった。
- 問題、発表についての質問があるか聞かれても、とっさに考えられなかったり、英語で答えられなかったりしたところで力不足を実感した。でも、留学生のほうが分かりやすい英語で言い換えるなどの形でサポートしてくださって助けられた。
- ディスカッションやブレインストーミングを通してコミュニケーションをとることができ、楽しみながらも話題への理解を深められたと思う。

